

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 「清流」環境保全推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境エネルギー生活部 環境管理課 水環境係 電話番号：058-272-1111(内2986)

E-mail：c11264@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 678 千円 (前年度予算額：678 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	678	0	0	0	0	0	678	0	0
要求額	678	0	0	0	0	0	678	0	0
決定額	678	0	0	0	0	0	678	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

第6次岐阜県環境基本計画の基本方針として掲げる「未来につなぐ人づくりとライフスタイルの変容」のため、県民の意識の醸成や保全活動の活性化を図る必要がある。

特に、本県のアイデンティティである「清流」を守り、活かし、次世代に伝えていくため、森・川・海のつながりを踏まえた県民協働による環境保全の取組を推進していく必要がある。

(2) 事業内容

○県民による水環境の保全に向けた意識調査

- ・ 清流調査隊 (地域の水質汚濁の改善に取り組む団体を登録)
- ・ 感覚による河川調査 (清流調査隊等による河川の目視・におい調査)
- ・ カワゲラウォッチング (全国水生生物調査の実施に係る助言等)

○清流ミナモの未来づくり

- ・ 清流を「守る」、「活かす」、「伝える」という環境保全の取組を県民、団体、行政等地域社会が一体となって推進するため、これに賛同する清流の保全に資する様々な活動を「清流ミナモの未来づくり」とし、県のウェブページやFacebookの「清流ミナモ」ページに掲載し、活動情報を広く配信

(3) 県負担・補助率の考え方

全県にわたる環境保全の普及啓発を行うため県負担が妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	15	業務旅費
需用費	558	水質調査キット、印刷製本費等
役務費	105	郵便料、電話料
合計	678	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第7次岐阜県環境基本計画（計画期間：令和8～12年）

(2) 事業主体及びその妥当性

県民、市町村及び団体が単独で行うことは困難であり、県が一括して行うことが効率的で、県民等への支援と併せ県自らが実施することは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
環境保全の普及啓発を継続的に行うことで、県民の自然環境への関心と意識を高め、県民による環境保全活動の活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	H29年度	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
	実績	実績	目標	目標	(R9)	
活動流域数	14/19	17/19	18/19	19/19	19/19	95%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

清流調査隊の重点活動流域における活動実績流域について、平成29年度時点では19流域中14流域で実施しており、平成30年度以降、10年間で新規の活動流域を5件増加することを目標に事業を実施している。

令和4年度	清流調査隊のチラシやホームページでの案内により、当該事業の周知を強化。清流調査隊には、調査資料や簡易水質検査キット等の資材を配布し、継続的な活動を推進した。
	指標 達成率：89.5%
令和5年度	清流調査隊のチラシやホームページでの案内により、当該事業の周知を強化。清流調査隊には、調査資料や簡易水質検査キット等の資材を配布し、継続的な活動を推進した。
	指標 達成率：89.5%
令和6年度	清流調査隊のチラシやホームページでの案内により、当該事業の周知を強化。清流調査隊には、調査資料や簡易水質検査キット等の資材を配布し、継続的な活動を推進した。
	指標 達成率：94.7%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>県民の方が主体的に活動できる事業であり、環境保全の大切さを知る機会を作る必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>主体的に活動できるため、期待どおりの成果が得られている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>市町村や関係団体、他部局と連携して実施することにより、効率的に広く普及啓発を行っている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 環境を取り巻く状況は年々変化しているため、現状に合った啓発内容に見直すとともに、環境学習ポータルサイトとの連携やワークショップ型の体験活動など県民の関心を一層高めるための啓発手法を取り入れる必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 環境保全を推進するには、広く県民に対しその必要性を訴え続けていくことが必要である。そのため、事業の効果や効率を検証しつつ、引き続き県民による取組などを普及啓発していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>ぎふ清流ハーフマラソン【地域スポーツ課】 農業フェスティバル【農産物流通課】 など</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	<p>子どもから大人に至るまで幅広い層の方が参加し、県民に広く環境保全や生物多様性についてより効果的にPRできるため。</p>